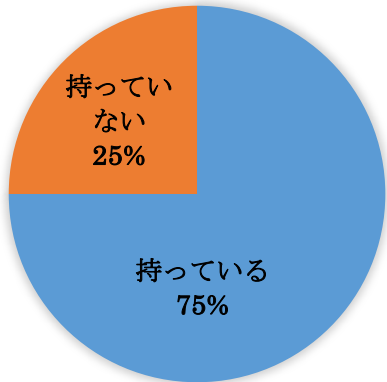


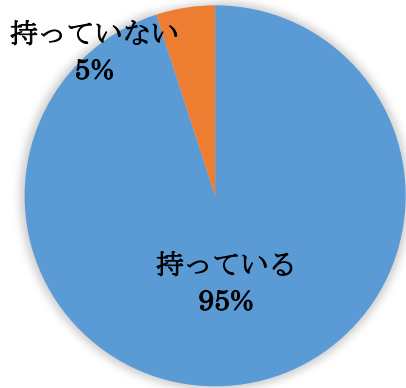
令和7年度メディア調査結果

ケータイやスマートフォン、タブレットを持っていますか。

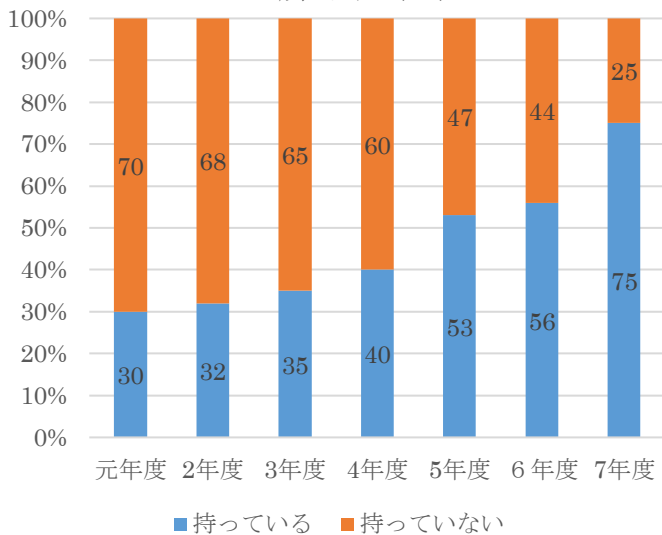
自分の携帯・スマホ・タブレット
所持率（小）



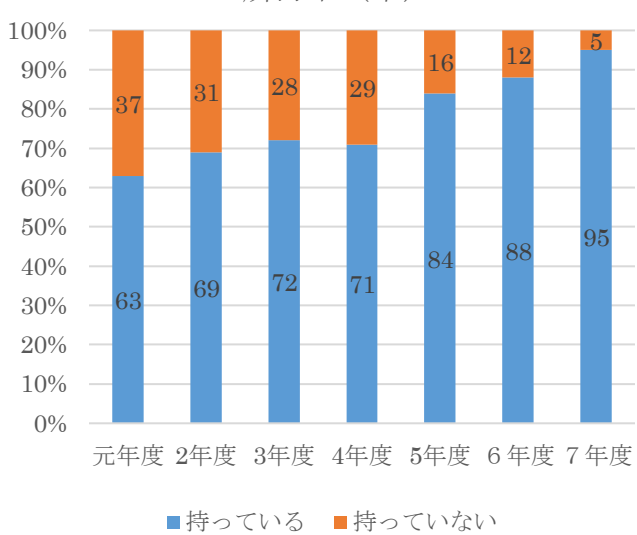
自分の携帯・スマホ・タブレット
所持率（中）



自分の携帯・スマホ・タブレット
所持率（小）



自分の携帯・スマホ・タブレット
所持率（中）



所持率は75%に達し、元年度から倍以上に急増。高止まり傾向にあるが、低年齢化への普及が顕著。

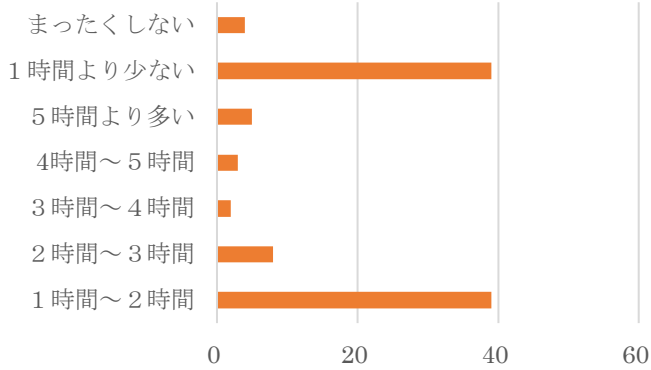
所持率は95%と極めて高く、ほぼ全員が所有。元年度の63%から大幅に上昇し、現在は飽和状態。

小学生は低年齢化を踏まえた家庭でのルール作りが必須。中学生は、ほぼ全員所持を前提とした情報リテラシー教育が必須。

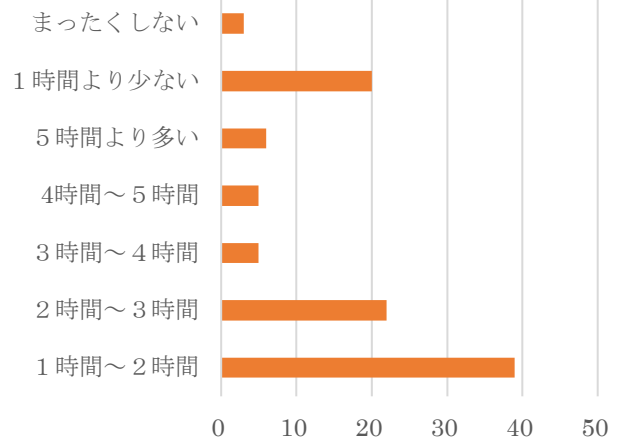
令和7年度メディア調査結果

【平日】学校以外で、どのくらい学習していますか（塾も含む）

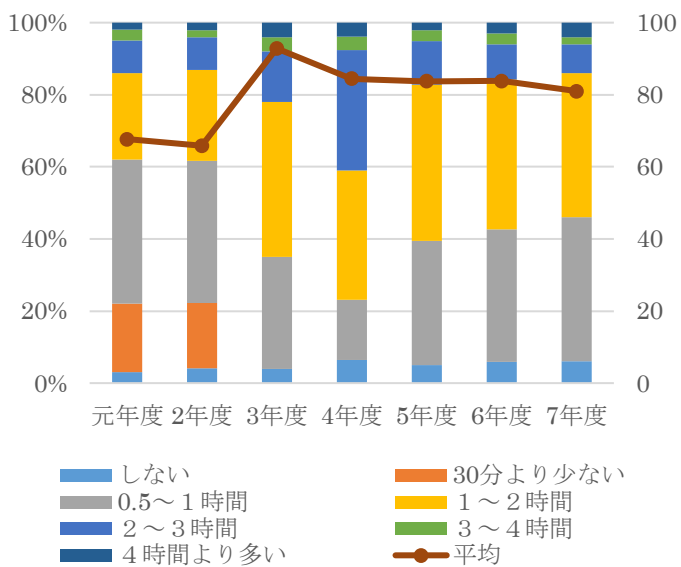
平日の家庭での学習時間（小）



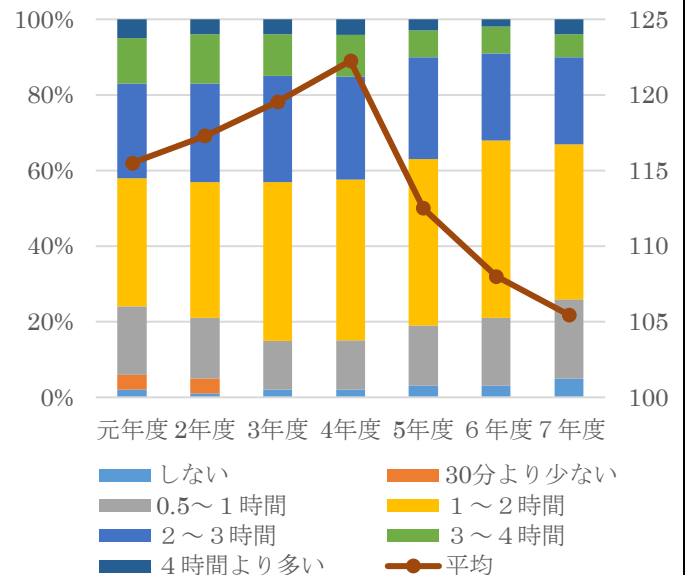
平日の家庭での学習時間（中）



平日家庭での学習時間（小）



平日家庭での学習時間（中）



「1～2時間」が最多で、平均時間は約80分。1時間より少ない児童も40%弱いる。

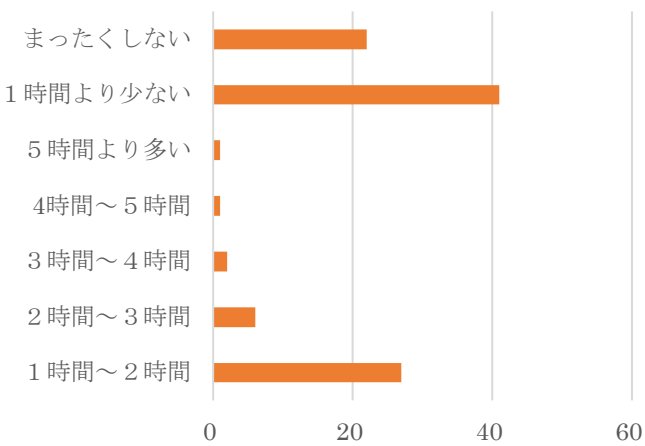
「2～3時間」層が厚く学年が上がるにつれ学習時間は長くなっているが、1時間より少ない生徒が20%弱いる。

平日は小学生、中学生とも「1時間以上」の学習は定着している。家庭学習の質の向上と学習短時間層への習慣付けを重点的に指導していく。

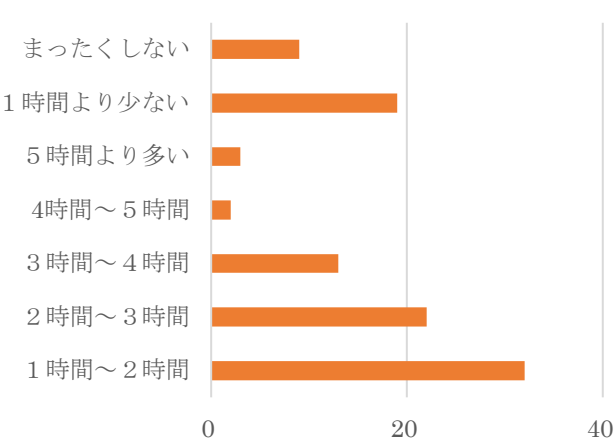
令和7年度メディア調査結果

【休日】学校以外で、どのくらい学習していますか。（塾も含む）

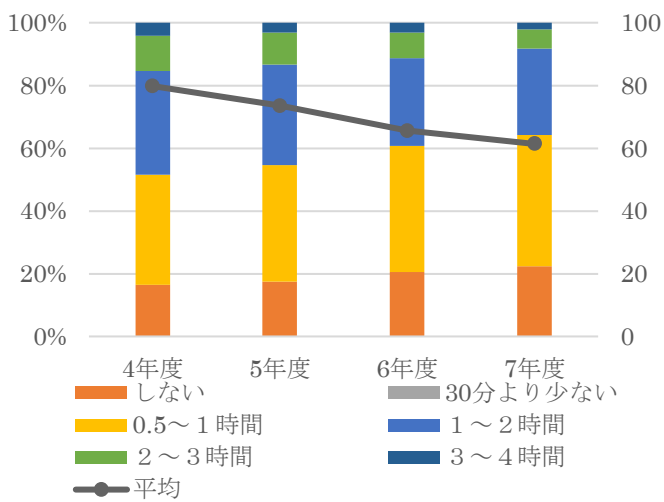
休日の家庭での学習時間（小）



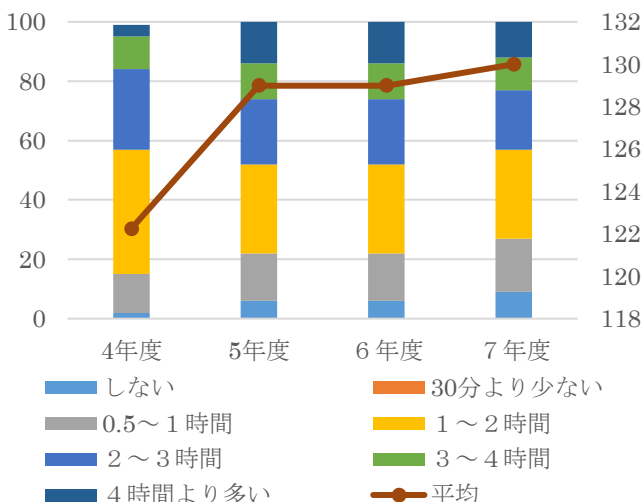
休日の家庭での学習時間（中）



休日家庭での学習時間（小）



休日家庭での学習時間（中）



平均学習時間は60分。右肩下がりになっており、「しない」と回答した児童が増えている。

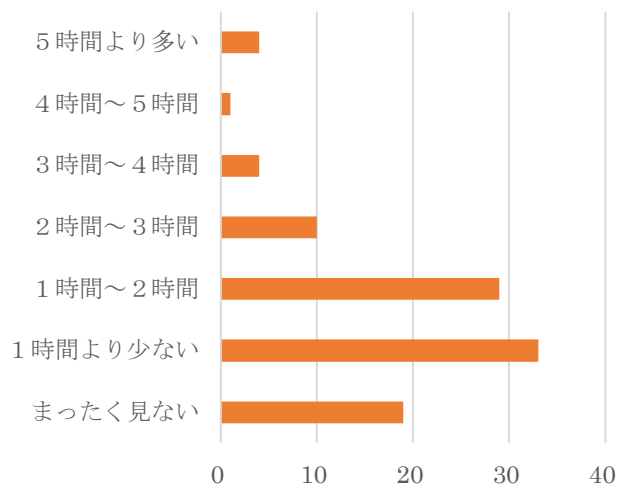
平均学習時間は130分。右肩上がりで増加しており、受験等を意識した学習意欲の向上が見られる。

平日は学習習慣が定着しているため、休日は自ら課題を見つけ、主体的に取り組む学習の質の向上を促すことが大切。

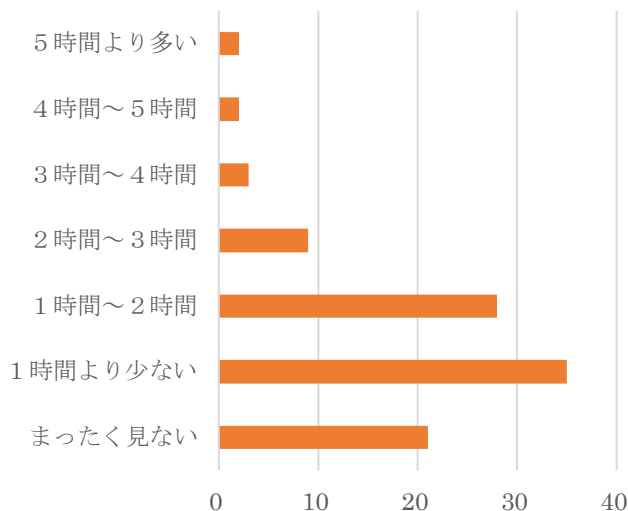
令和7年度メディア調査結果

【平日】テレビ番組や録画しておいたビデオやDVDをどのくらい見ますか。

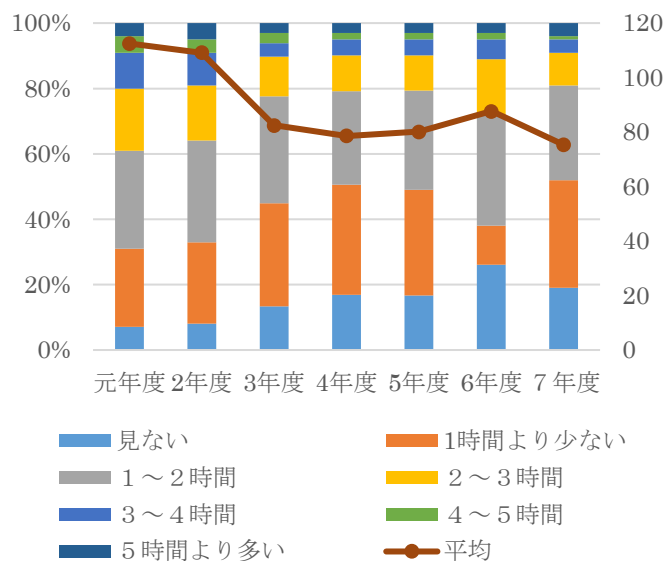
平日のテレビ等視聴時間（小）



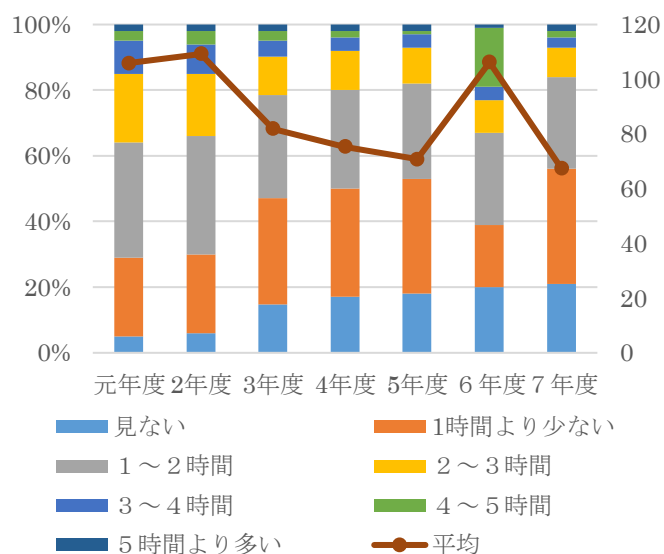
平日のテレビ等視聴時間（中）



平日テレビ等視聴時間（小）



平日テレビ等視聴時間（中）



平均視聴時間は70分で、元年度の110分から大幅に減少。まったく見ない児童も20%弱おりテレビ離れが進んでいる。

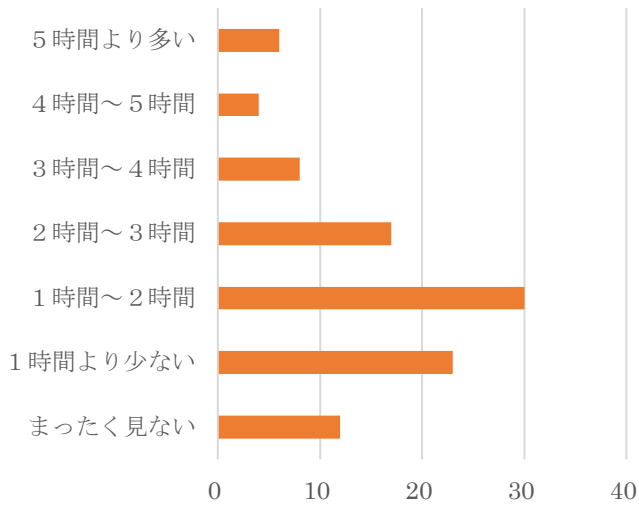
平均視聴時間は65分で、元年度の100分から減少しており小学生より短い傾向にある。

テレビ離れが進む一方、YouTube等の動画配信への移行が推測されるため、視聴時間だけではなく視聴内容の指導も今後、必要となってくる。

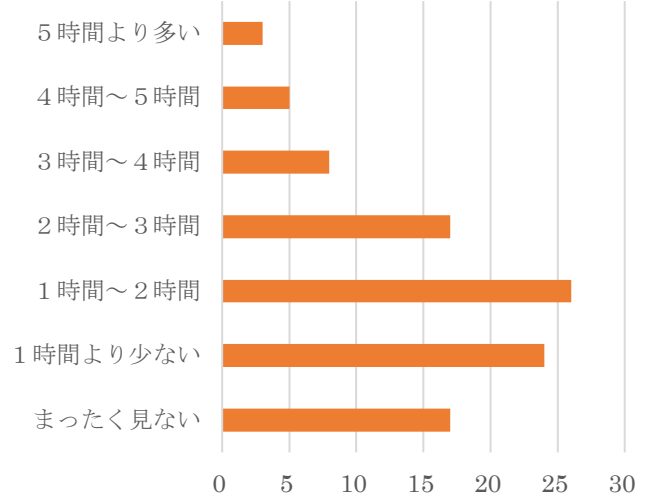
令和7年度メディア調査結果

【休日】テレビ番組や録画しておいたビデオやDVDをどのくらい見ますか。

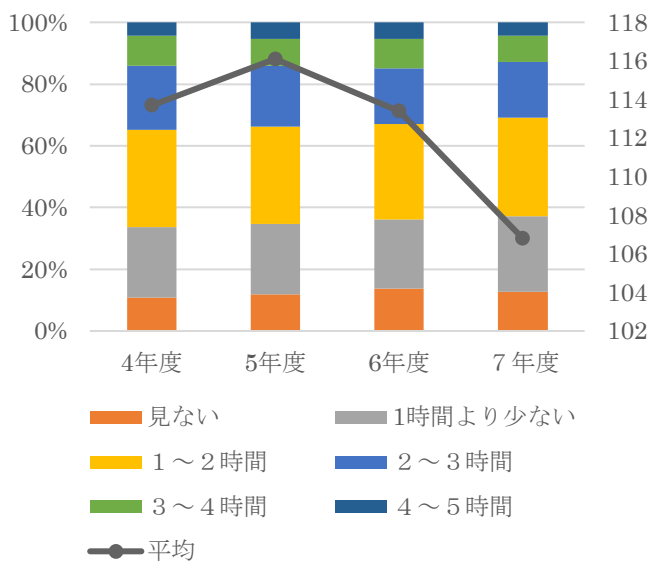
休日のテレビ等視聴時間（小）



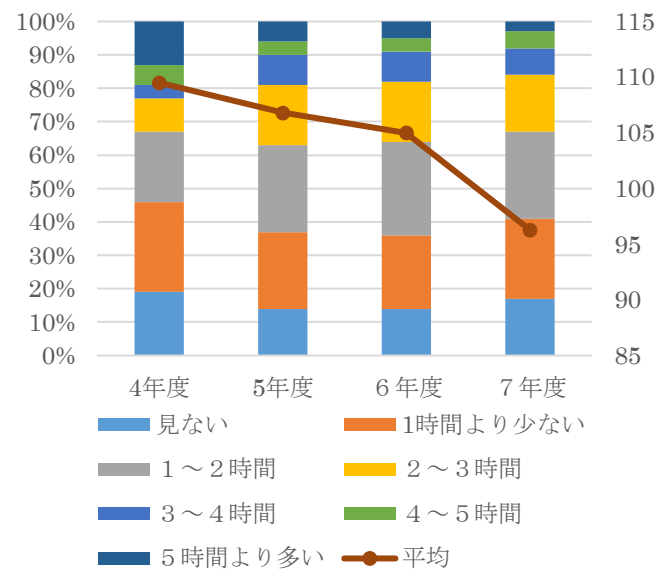
休日のテレビ等視聴時間（中）



休日テレビ等視聴時間（小）



休日テレビ等視聴時間（中）



平均視聴時間は約106分。令和5年度（約116分）から年々減少しており、テレビ離れが加速している

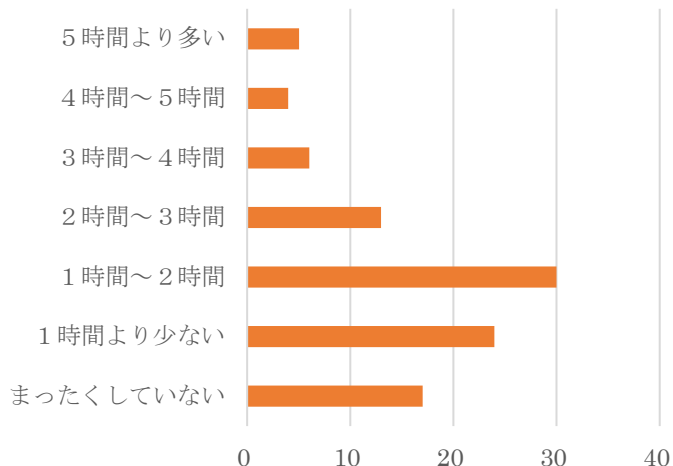
平均視聴時間は約95分。令和4年度（約110分）から年々減少しており、他メディアへの移行が顕著である。

休日のテレビ視聴は大幅に減少しているため、代わりに増えている動画サイト等の利用実態を把握し指導する必要がある。

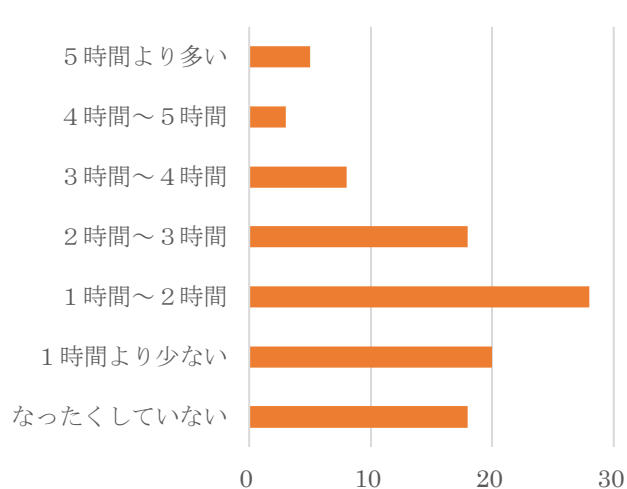
令和7年度メディア調査結果

【平日】ゲーム（ゲーム機・パソコン・タブレット・スマートフォンなどで）をどのくらいしますか。

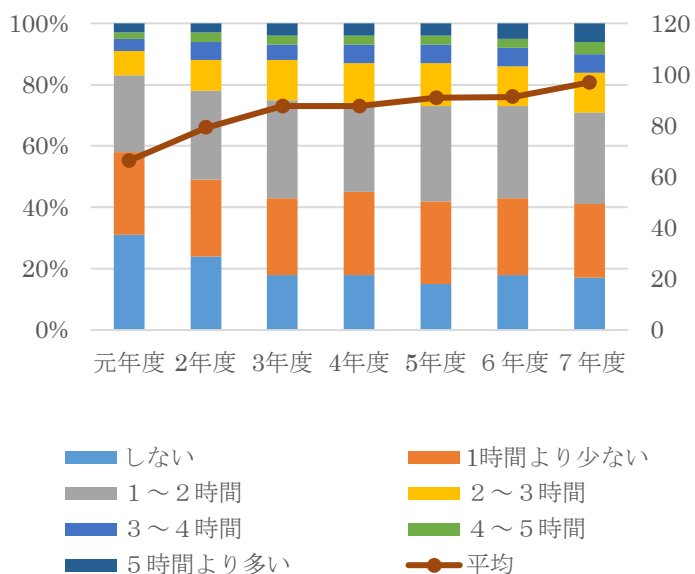
平日ゲーム時間（小）



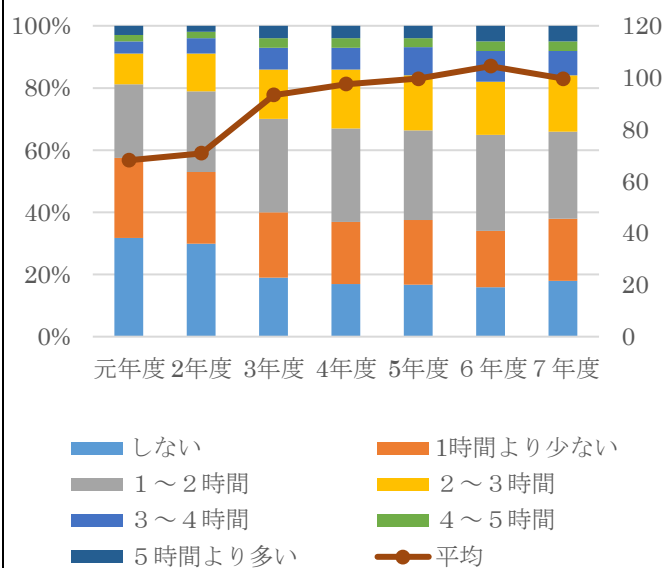
平日ゲーム時間（中）



平日ゲーム時間（小）



平日ゲーム時間（中）



平均時間は約100分で令和3年度からほぼ横ばい。1時間以上行う層が約6割を占め、習慣化されている。

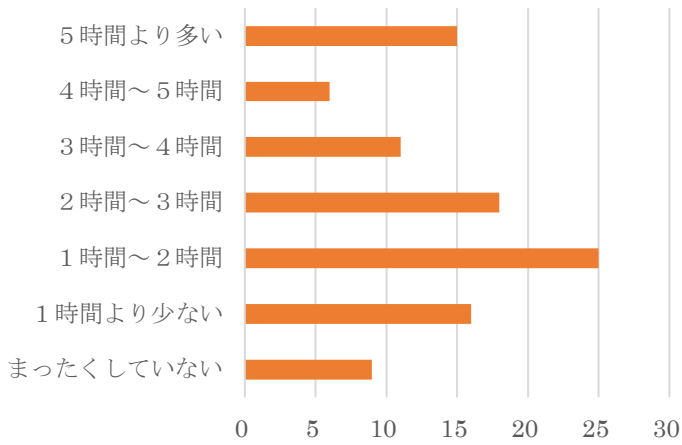
平均時間は約100分で3年度からほぼ横ばい。小学生同様、1時間以上行う生徒が6割を占め、習慣化されている。

小中学生とも1時間以上ゲームをすることが習慣化されていることを踏まえ、依存や生活習慣の乱れを防ぐため、家庭でのルール遵守を再度徹底する必要がある。

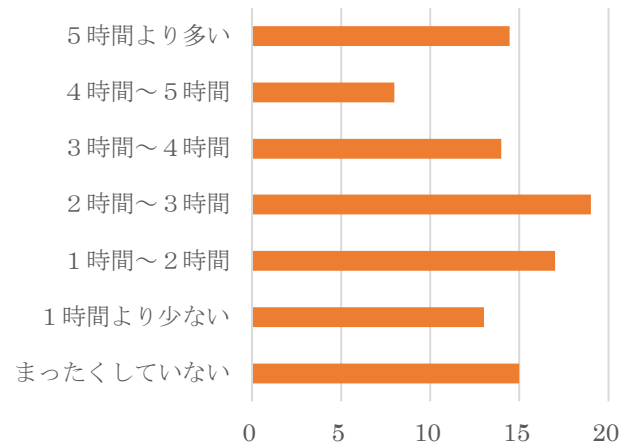
令和7年度メディア調査結果

【休日】ゲーム（ゲーム機・パソコン・タブレット・スマートフォン等）をどのくらいしますか。

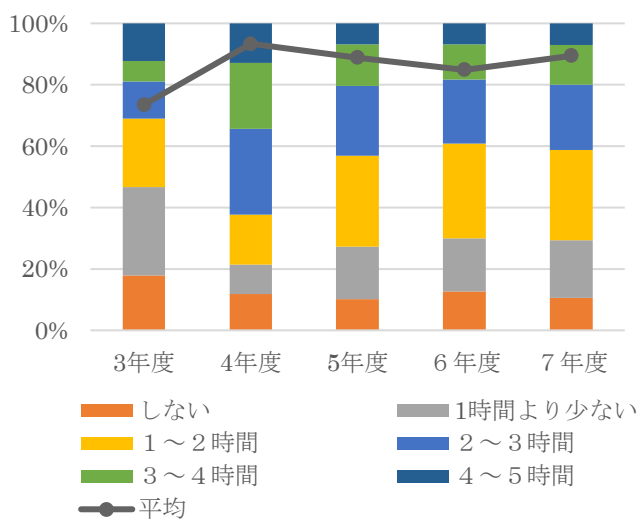
休日ゲーム時間（小）



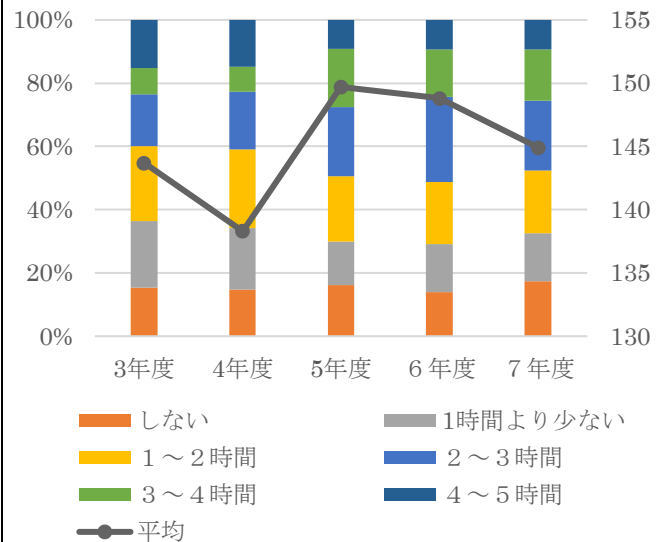
休日ゲーム時間（中）



休日ゲーム時間（小）



休日ゲーム時間（中）



平均は約140分。長時間利用層が定着している。

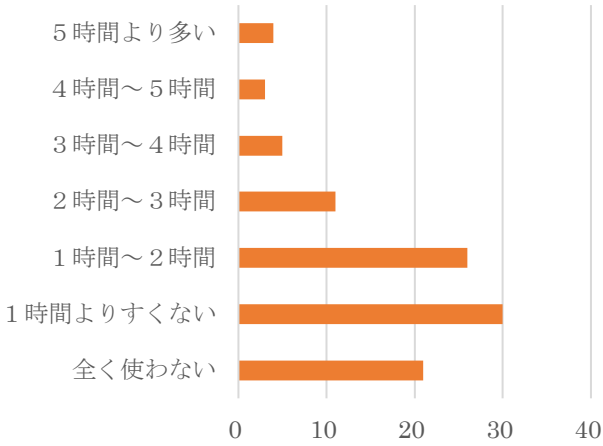
平均は145分。長時間利用層が定着している。

平日は100分、休日は2時間超と依存のリスクがあるため、時間管理の意識化と家庭でのルール徹底を促す必要がある。

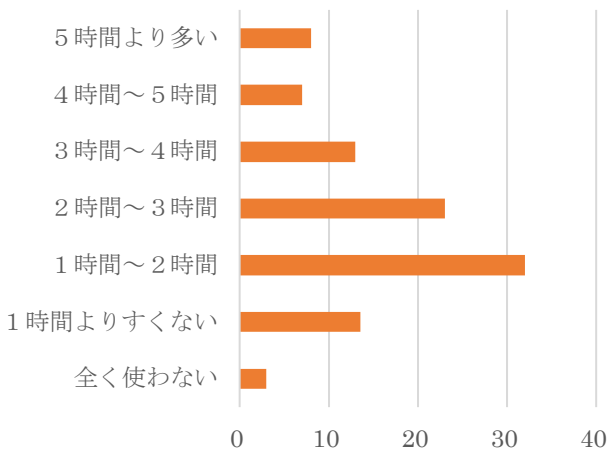
令和7年度メディア調査結果

【平日】 パソコン・タブレット・スマートフォン・ケータイをどのくらい使いますか。

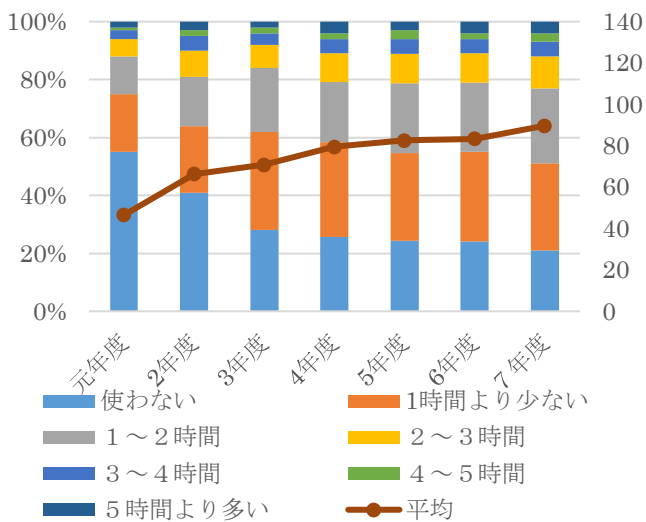
平日のスマホ等利用時間（小）



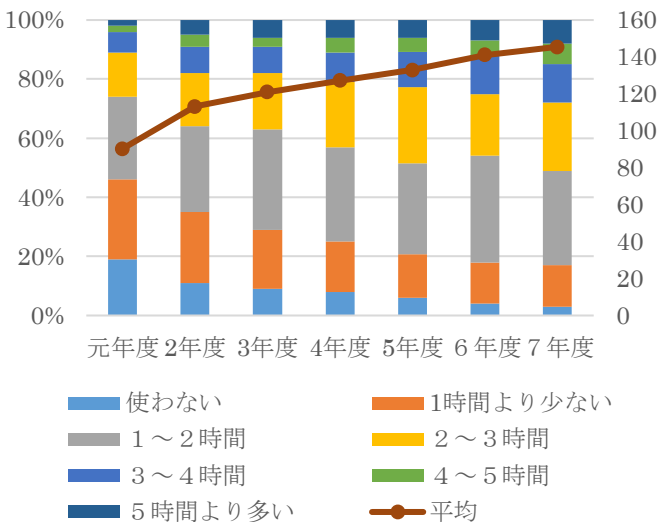
平日のスマホ等利用時間（中）



平日スマホ等利用時間（小）



平日スマホ等利用時間（中）



元年度の約 50 分から右肩上がりで増加し、7 年度は約 80分に。所持率の向上と共に利用が日常化している。

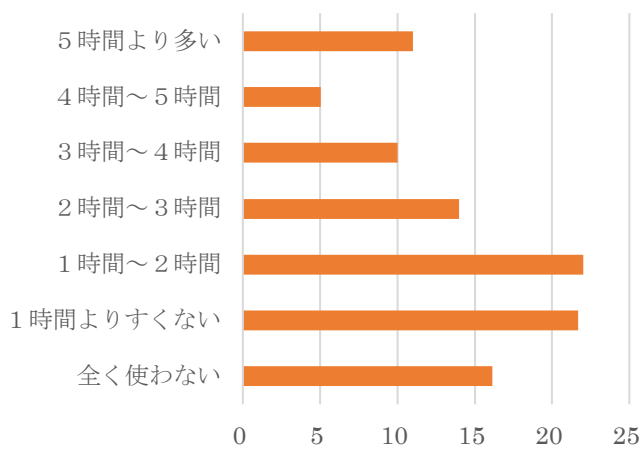
元年度の約 80 分から一貫して上昇し、7 年度は約 150 分。SNS や動画視聴が定着し、生活の欠かせない一部になっている。

利用時間が激増し学習時間に匹敵するため、目的を持った利用と、夜間の制限など自己管理能力の育成を図る必要がある。

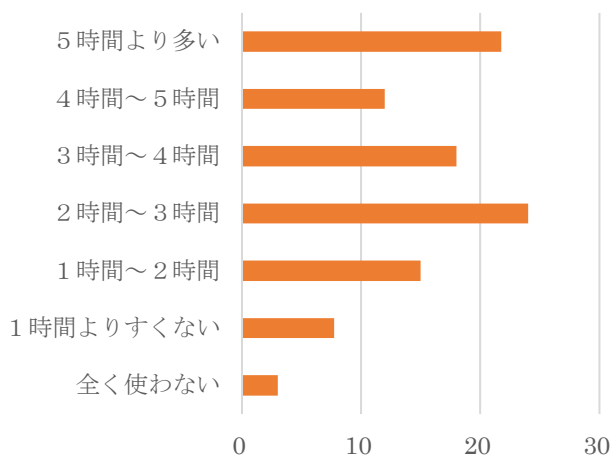
令和7年度メディア調査結果

【休日】パソコン・タブレット・スマートフォン・ケータイをどのくらい使いますか。

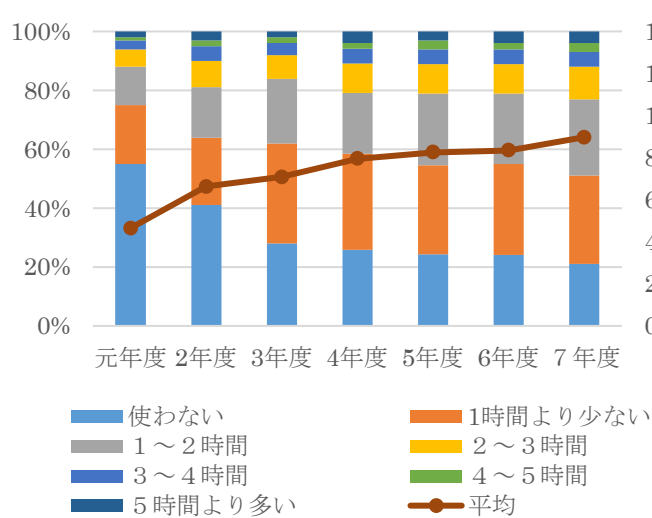
休日のスマホ等利用時間（小）



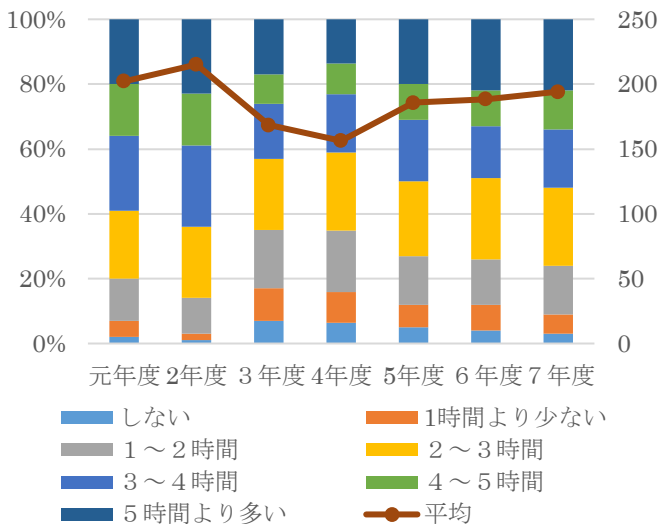
休日のスマホ等利用時間（中）



休日スマホ等利用時間（小）



休日スマホ等利用時間（中）



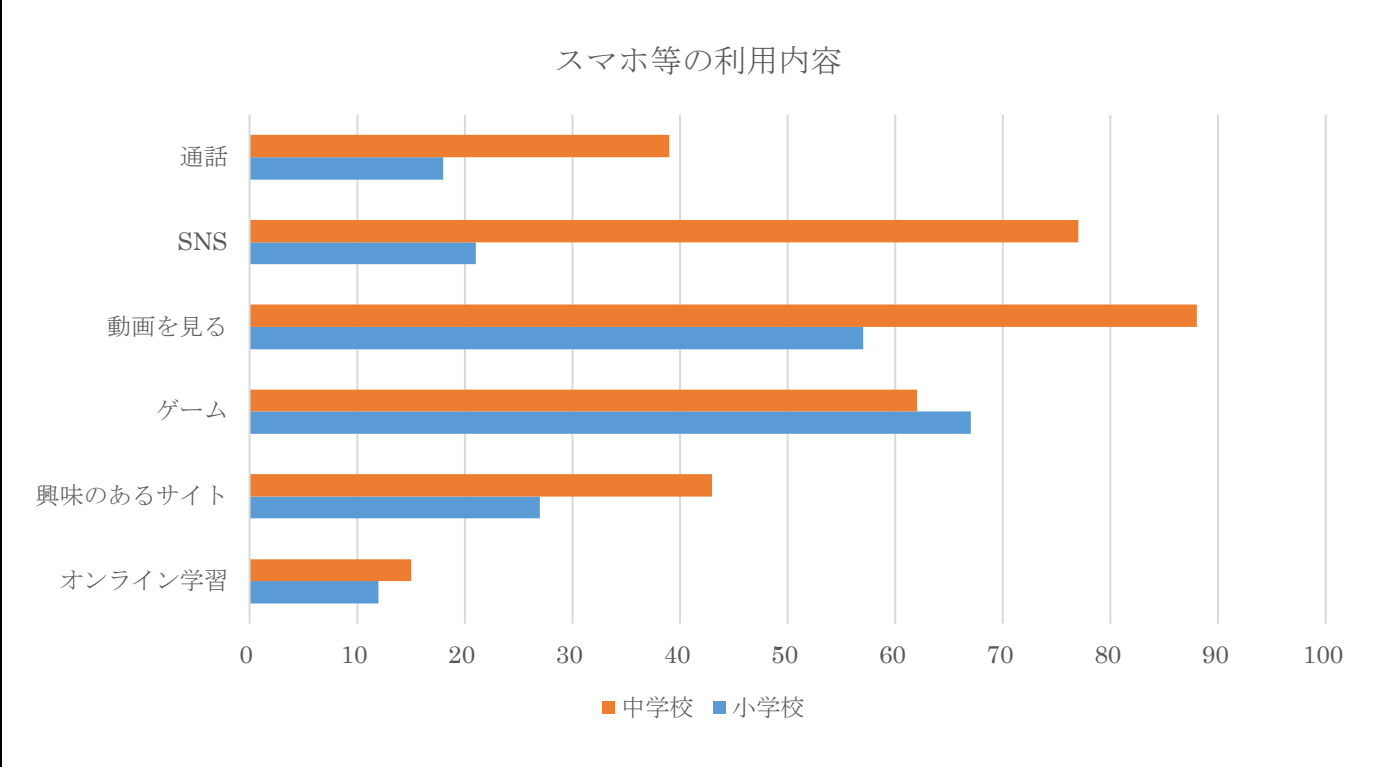
元年度の約 50 分から急増し、7 年度は約 100 分に倍増。
休日の娯楽がネット視聴や SNS へ完全に移行。

7 年度は約 200 分に。休日の大半をスマホに費やす層
が定着している。

睡眠や視力への影響を自覚させ、寝る前や食事中的の使用を控えるなど、健康を守る具体的な約束作りを促す必要がある。

令和7年度メディア調査結果

パソコン・インターネット・スマートフォン・ケータイで何をしますか（いくつでもかまいません）

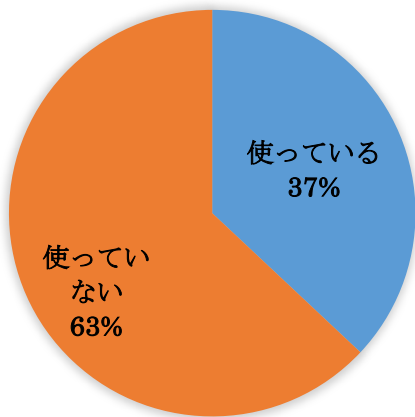


小学生は娯楽（動画・ゲーム）が中心。特に YouTube 等の「視聴」が入り口となっている。	中学生はコミュニケーション（SNS）が生活基盤となり、音楽や検索など「個人の趣味」全般に活用されている。
動画視聴や SNS が生活基盤化しているため、情報の真偽を見極める力と発信時のマナーを具体的に指導する必要がある。	

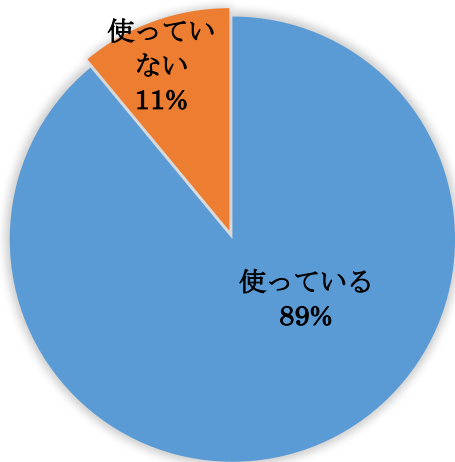
令和7年度メディア調査結果

LINE（ライン）を使っていますか

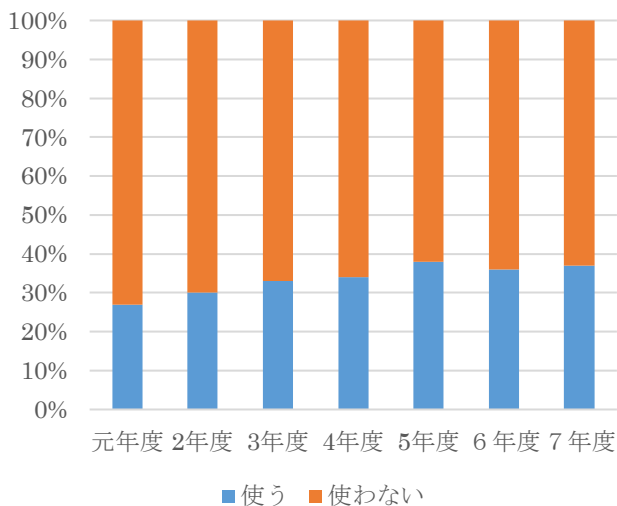
LINE使用率（小）



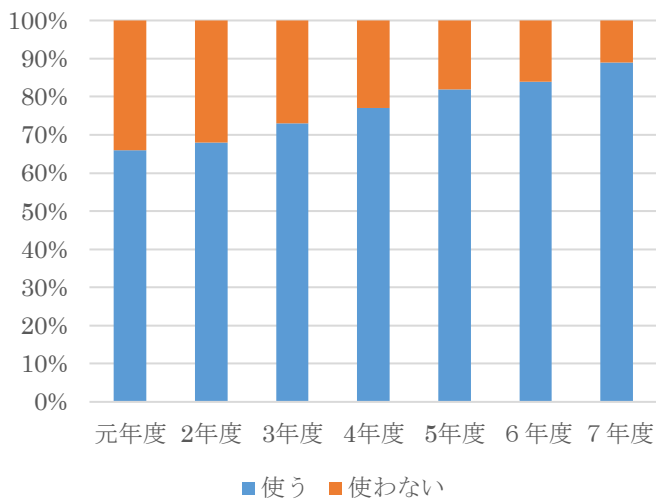
LINE使用率（中）



LINE利用率（小）



LINE利用率（中）



LINEの利用率は37%である。
昨年度より1%増加している。

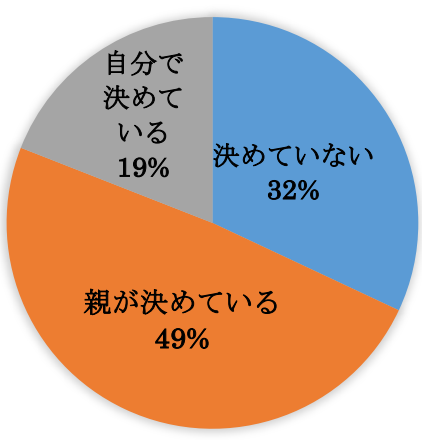
LINEの利用率は89%である。
昨年度より5%増加している。

文字だけでは感情が伝わりにくいため、送信前に相手の気持ちを想像し、夜間の通知オフなど節度を保つ指導をする必要がある。

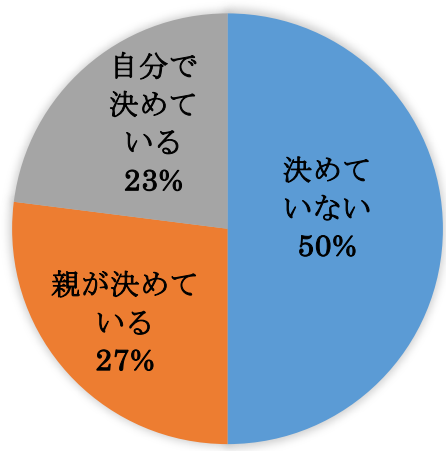
令和7年度メディア調査結果

テレビ・ゲーム・ケータイ・スマートフォン・パソコンなどを見たり、したりする時間を決めていますか。

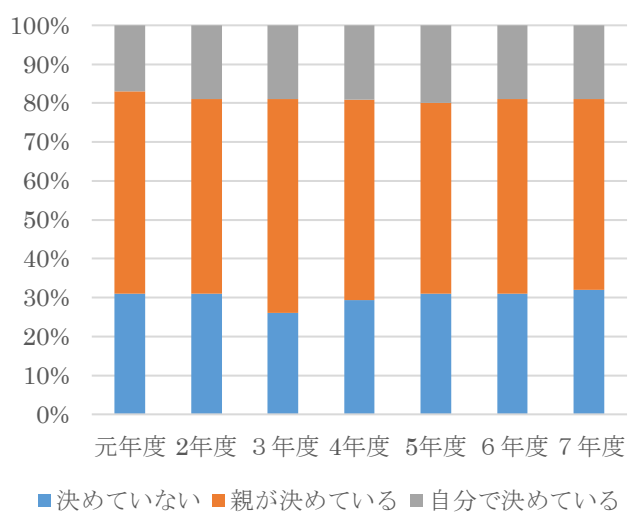
スマホ等利用ルール（小）



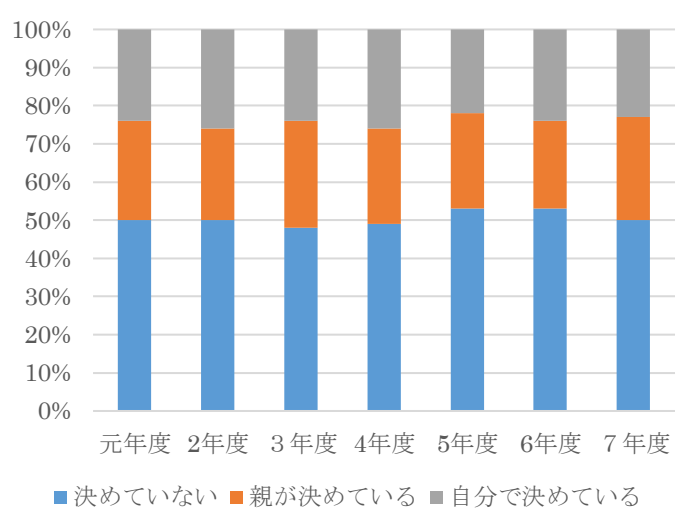
スマホ等利用ルール（中）



スマホ等利用ルール（小）



スマホ等利用ルール（中）



昨年度とほぼ同様の結果である。

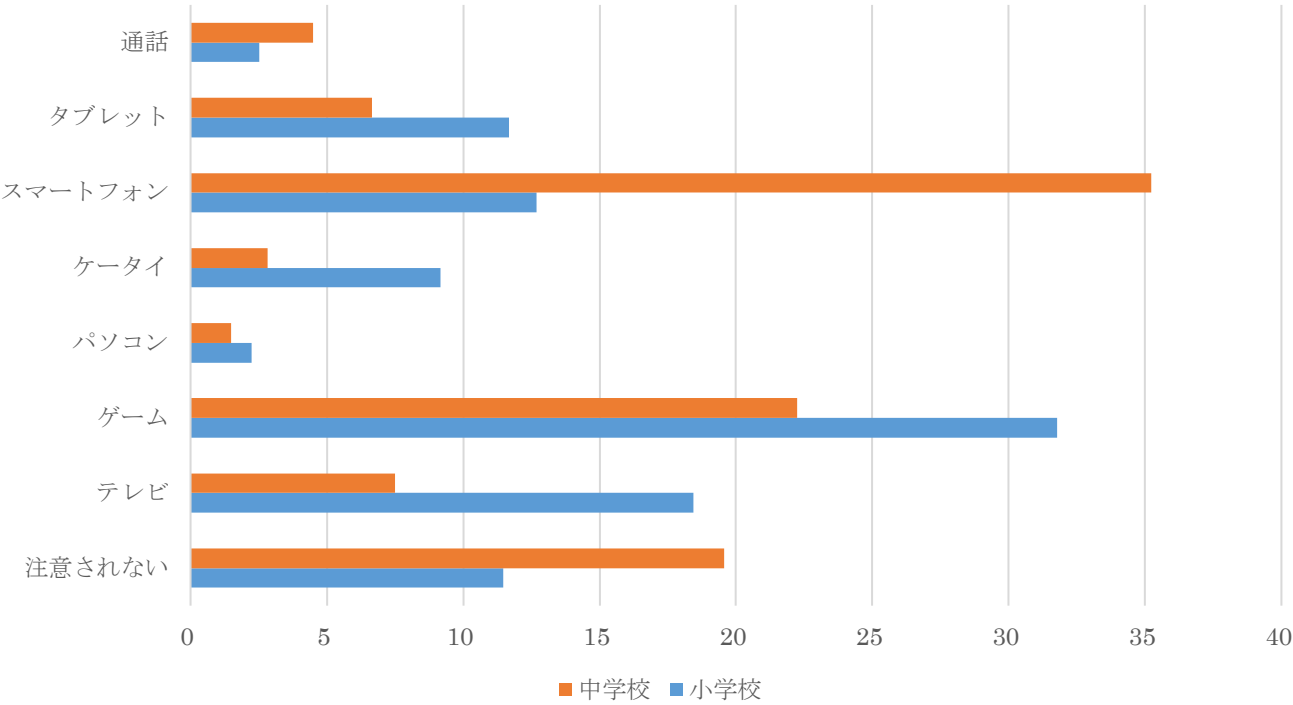
昨年度と比べ「決めていない」が3%減少した。

「親子で話し合って決めた」家庭ほど、ルールの遵守率が高いという傾向にある。本人の納得感に基づいた「セルフコントロール」への移行支援が大切である。

令和7年度メディア調査結果

テレビ・ゲーム・ケータイ・スマートフォン・パソコンなどについて親から注意されますか

スマホ等で注意されること



小学生は昨年度同様、ゲームで注意されることが多い。

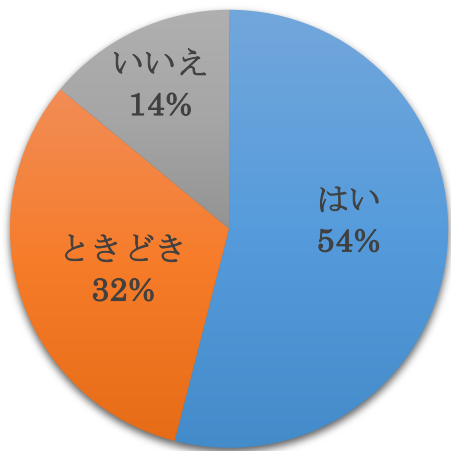
中学生ではスマホの使用について注意されることが圧倒的に多い。

利用についてのルールを親子で相談して決める際、「守れなかったらどうするか」も同時に話し合っておく必要がある。

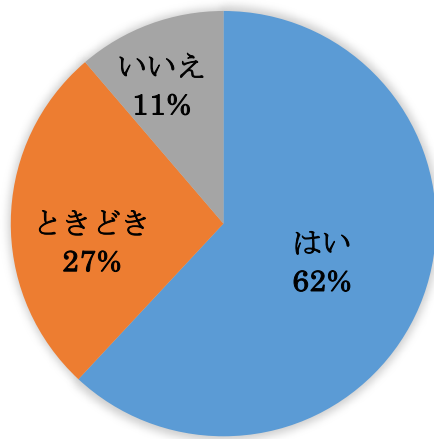
令和7年度メディア調査結果

食事中にテレビがついていますか。

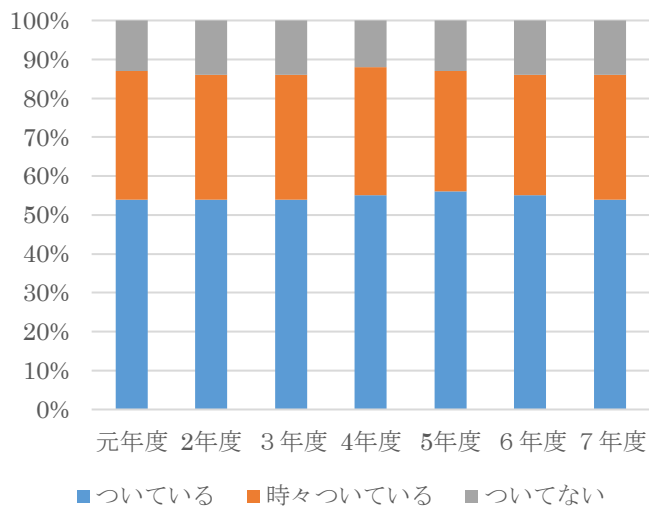
食事中のテレビ（小）



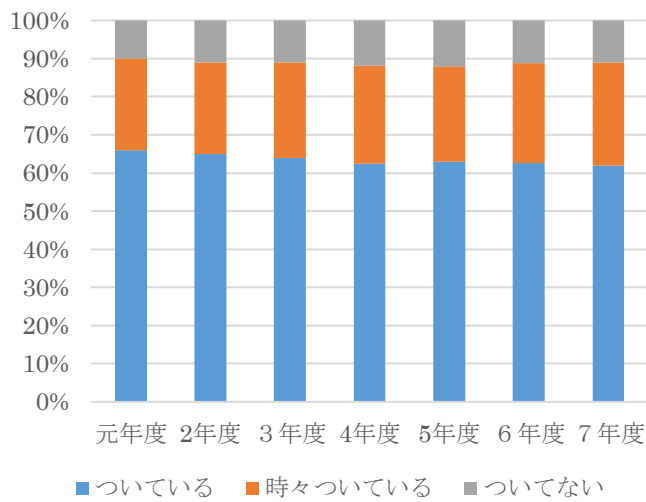
食事中のテレビ（中）



食事中のテレビ（小）



食事中のテレビ（中）



昨年度と同様である。

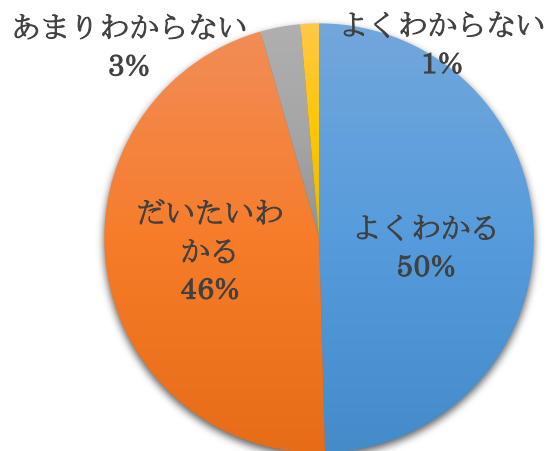
昨年度と同様である。

食事中は会話や味覚を大切にしている時間でもあるので、テレビを消して家族と交流し、食習慣や礼儀を整える大切さを伝えることも大切である。

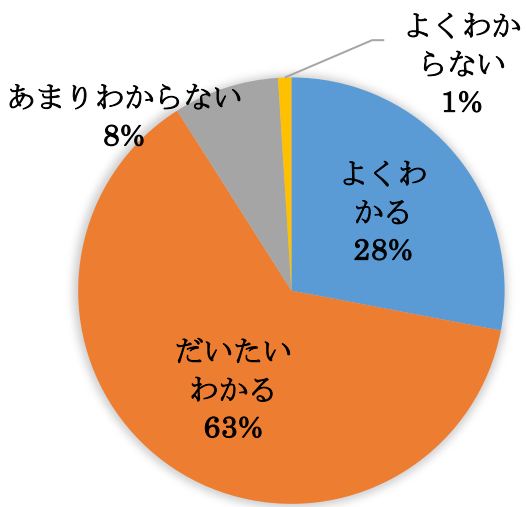
令和7年度メディア調査結果

学校の勉強は分かりますか。

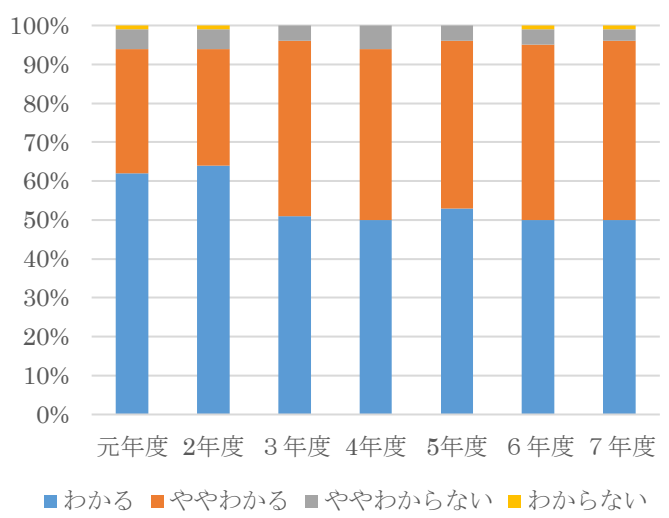
学校の勉強（小）



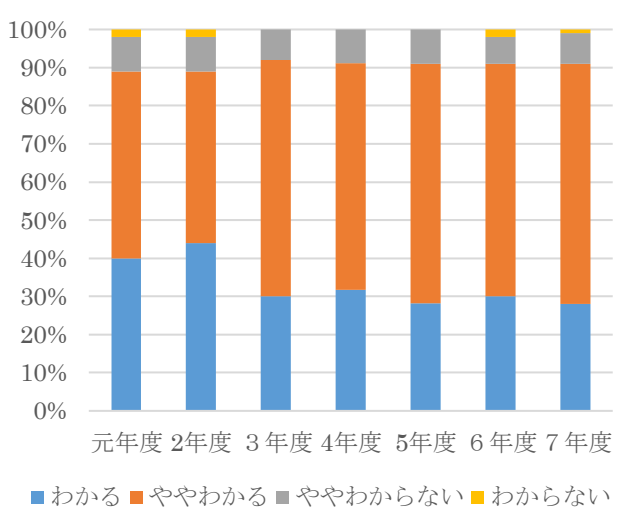
学校の勉強（中）



学校の勉強（小）



学校の勉強（中）



学校の勉強が「よくわかる」「だいたいわかる」と回答した児童は96%である。

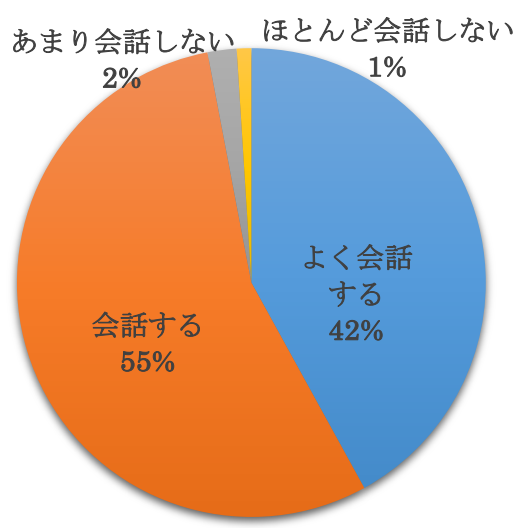
学校の勉強が「よくわかる」「だいたいわかる」と回答した生徒は91%である。

小中学校とも「よくわかる」「だいたいわかる」が90%を越えており、日々の授業の理解はできていることがわかる。繰り返すことで定着につなげることが大切である。

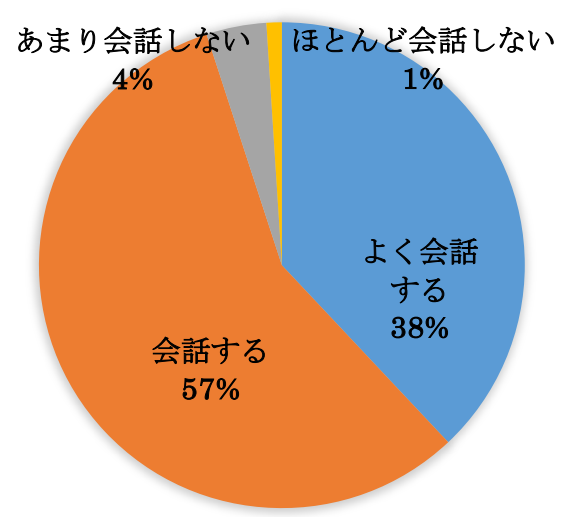
令和7年度メディア調査結果

家族と会話をしていますか

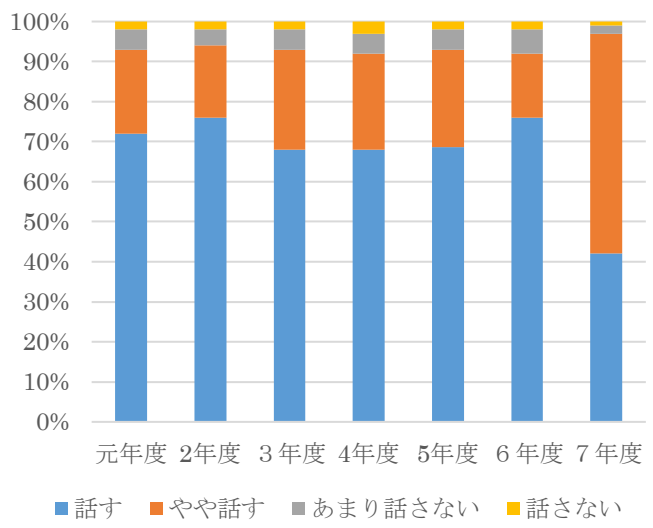
家族との会話（小）



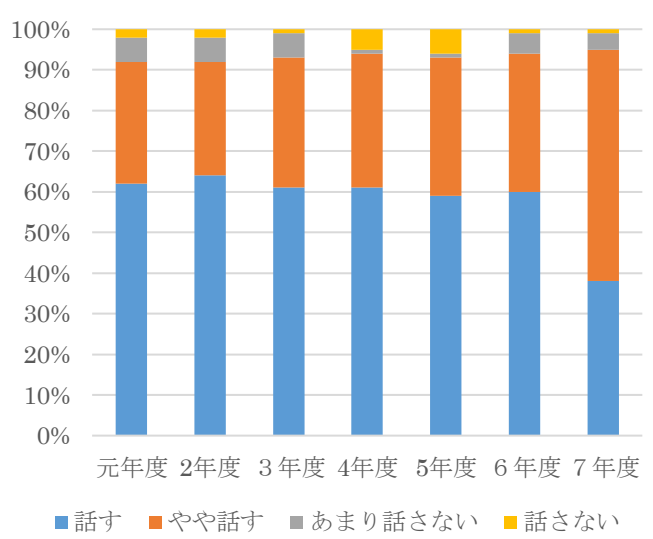
家族との会話（中）



家族との会話（小）



家族との会話（中）



「よく会話する」「会話する」と回答した児童は 97%であり
昨年度より5%増加している。

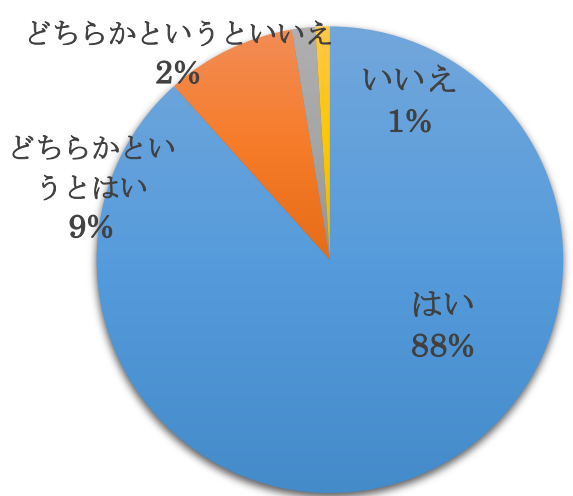
「よく会話する」「会話する」と回答した生徒は 95%であり
昨年度より1%増加している。

学校での出来事や感じたことを積極的に家庭で共有し、お互いの話を最後まで聞くなど、温かい対話をこころがけることが大切。

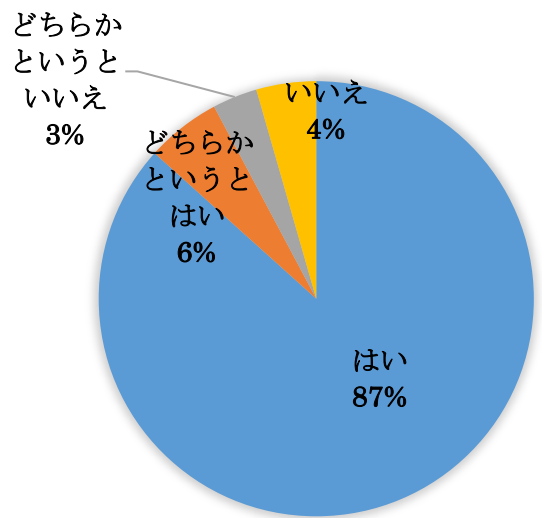
令和7年度メディア調査結果

あなたには、仲のよい友達がありますか

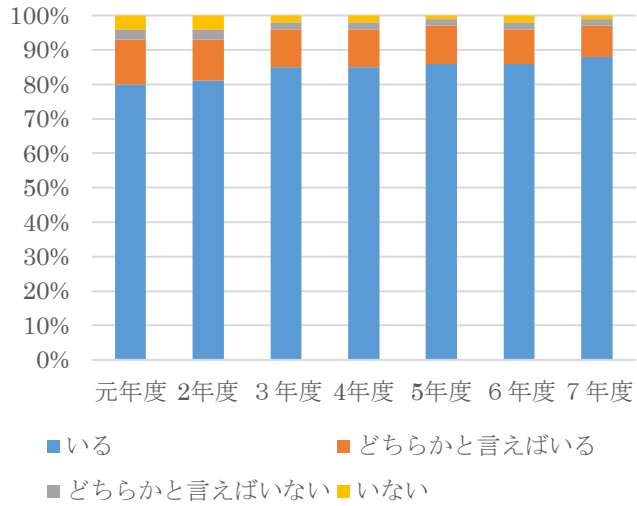
仲のよい友達（小）



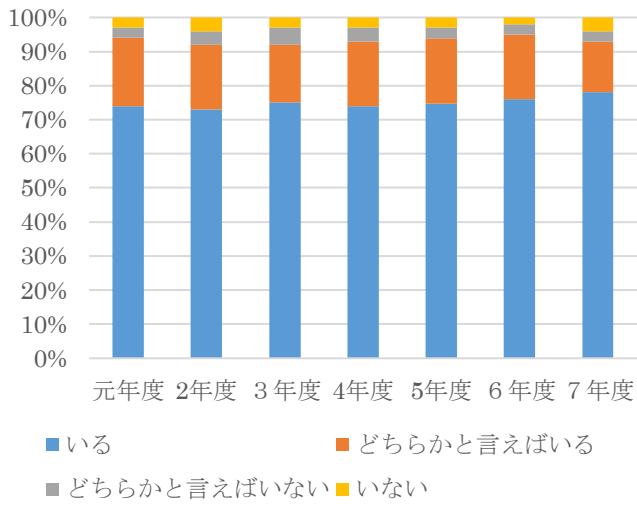
仲のよい友達（中）



仲のよい友達（小）



仲のよい友達（中）



「はい」「どちらかというとはい」と回答した児童が昨年度から1%増えて97%であった。

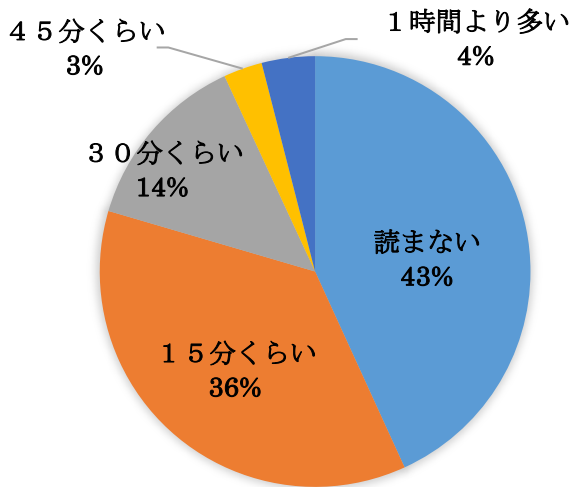
「はい」「どちらかというとはい」と回答した生徒が昨年度から比べて2%減って93%であった。

対面とネットの使い分けをしっかりと行い、仲が良いからこそ、大切な話は直接会って話し、SNSでの誤解を防ぐようにする。

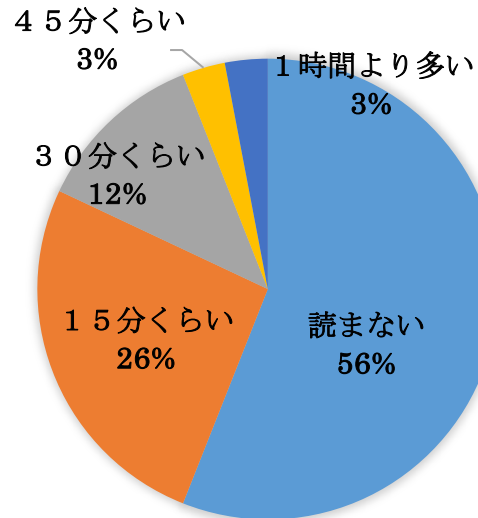
令和7年度メディア調査結果

【平日】家で本を読む時間は どのくらいですか。（マンガはのぞく）

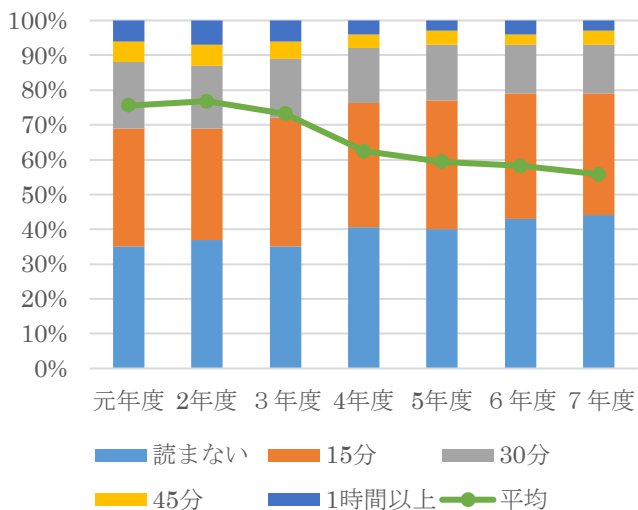
平日家庭読書時間（小）



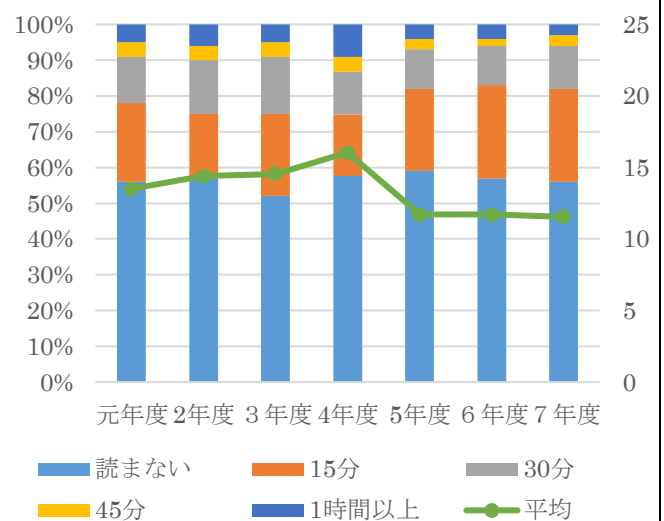
平日家庭読書時間（中）



平日家庭読書時間（小）



平日の読書時間（中）



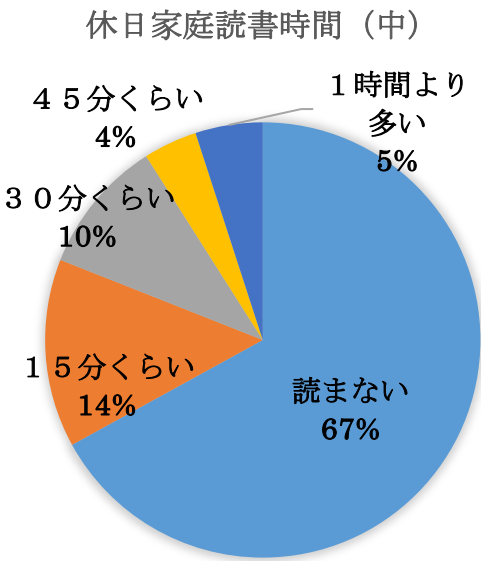
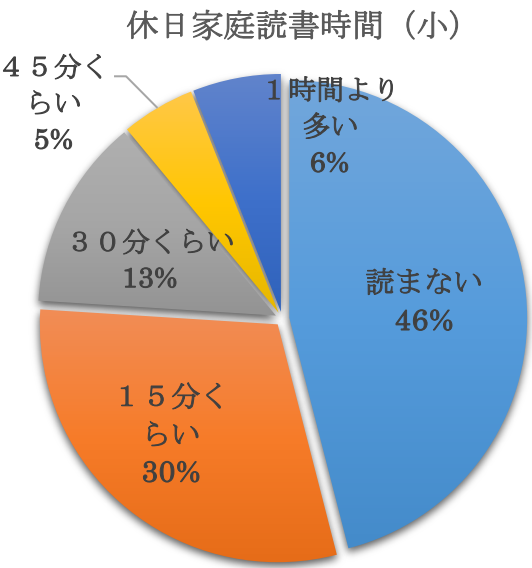
平均読書時間は約15分。スマホ利用の増加に伴い、元年度から減少傾向。全く読まない「不読率」も増加中。

平均読書時間は約10分。元年度よりさらに微減し、全く読まない「不読立」も横ばいの状況。

「朝読書の時間」を形骸化させず、教師も共に本を読み「読書の空気」を全校で創出することが必要。また、スマホ利用時間の長大化が不読に直結している実態を踏まえ、家庭と連携し、物理的に本と向き合う時間を確保することが大切である。

令和7年度メディア調査結果

【休日】家で本を読む時間はどのくらいですか。（マンガはのぞく）



小学生の休日平均読書時間は約20分。スマホやゲームの長時間利用に押され減少している。

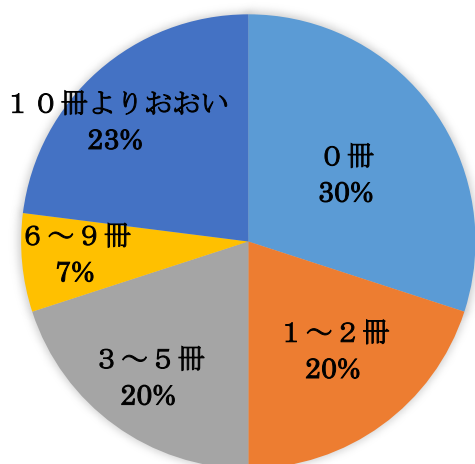
中学生では、部活動や SNS、ゲームに時間をとられ、休日に本を読まない生徒が微増している。

休日はスマホ等の長時間利用により、読書時間が平日以上に削られる傾向にある。「デジタルオフ」の時間を設け、まとまった読書で思考力を養うよう促していく。家族で本を囲む時間が心の安定に繋がっていく。

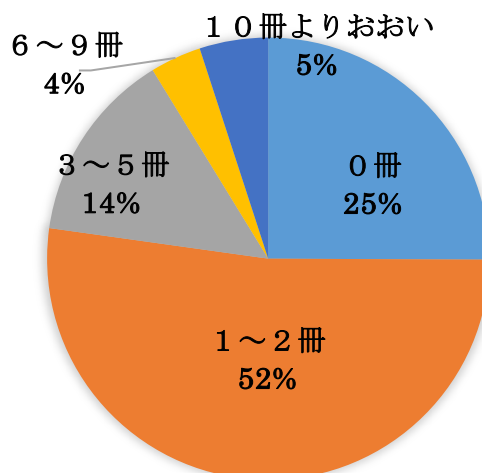
令和7年度メディア調査結果

1 か月に何冊本を読みますか（教科書でない本）

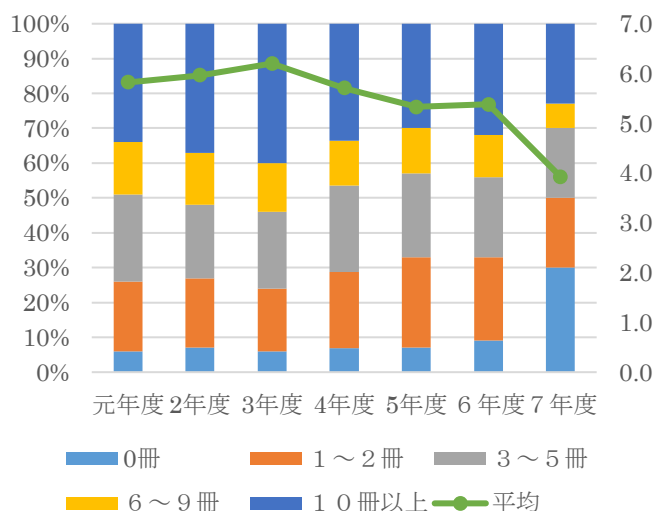
1 ヶ月の読書量（小）



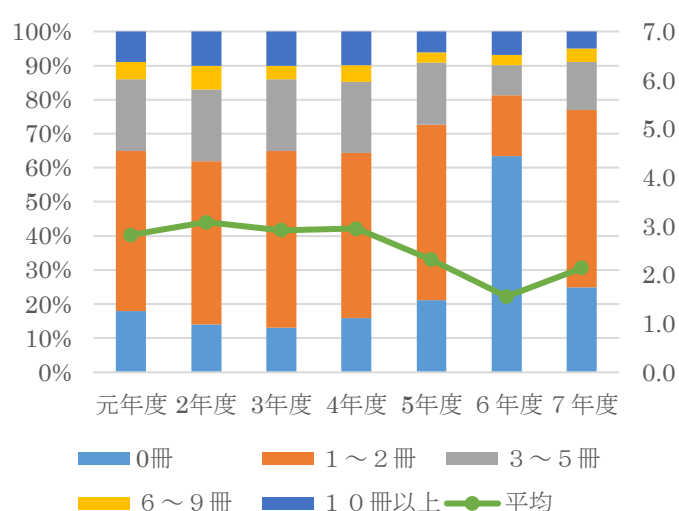
1 ヶ月の読書量（中）



1 か月間読書量（小）



1 か月間の読書量（中）



月平均は約4冊。「0冊」と回答した児童が 21%増えた。高学年での読書離れが顕著になった。

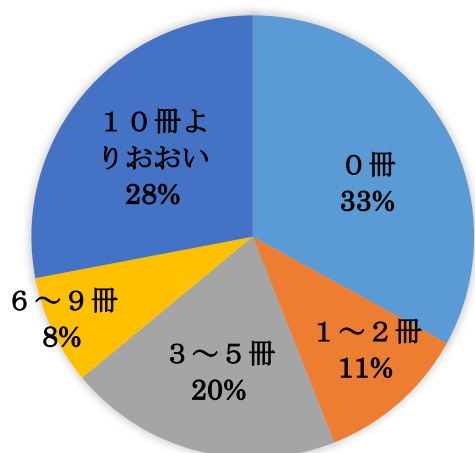
月平均は約 2 冊。部活動や SNS に時間を奪われ、1 ヶ月に 1 冊も本を読まない生徒も2%増加。

小学校から中学校への進学を機に生活リズムの変化やスマホ所持率の上昇によって読書量が劇的に減少する傾向にある。寝る前読書や隙間時間読書を推奨していく。

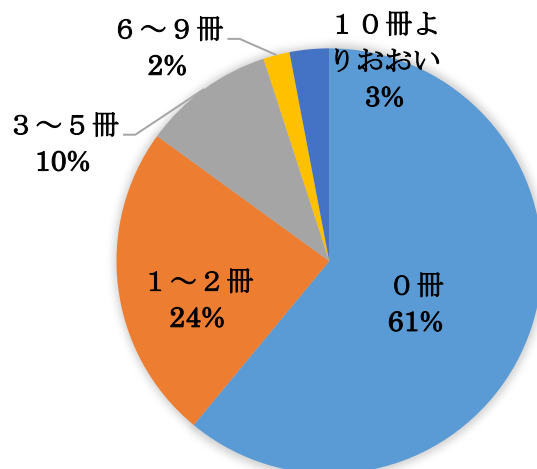
令和7年度メディア調査結果

1か月に何冊本を借りますか（学校の図書室、市立図書館、巡回図書など）

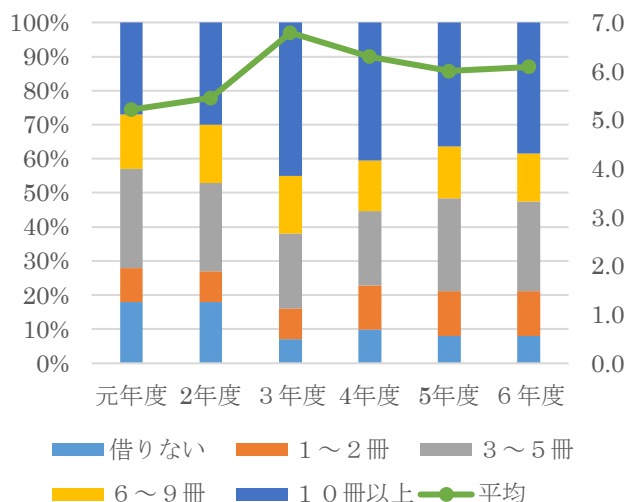
1ヶ月借用読書量（小）



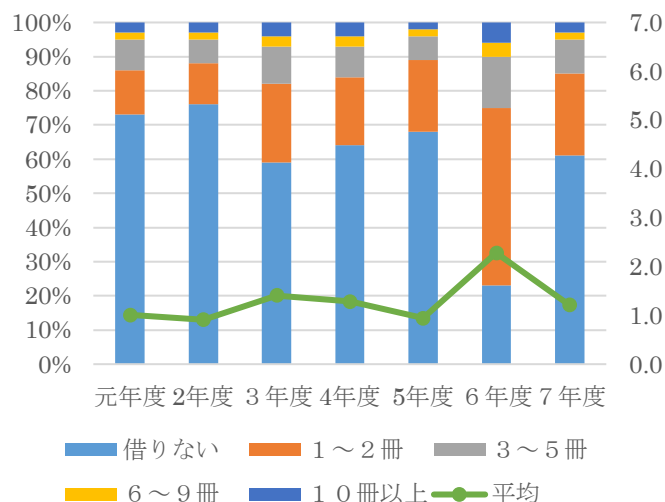
1ヶ月借用読書量（中）



1か月間借用読書量（小）



1か月間借用読書量（中）



月平均は約6冊。低学年は学校図書館等の利用が活発だが、高学年でスマホ所持率が上がると激減する傾向。

月平均は約1冊。部活動やSNSに時間を奪われ、1ヶ月に1冊も借りない「不読率」が6割に達し深刻化。

読書量を維持している層は、学校での「朝読書」や図書室の活用が習慣化しているが、全体としてスマホやタブレットが普及している今だからこそ、家庭・学校で読書する時間を確保し、本に向き合う時間を増やしていく取り組みが必須である。